

## 被災地派遣レポート〈第96回〉

総務局総合防災部防災管理課 関根 豊さん

私は平成24年10月1日から翌年3月31日までの半年間、宮城県に派遣され、宮城県経済商工観光部新産業振興課の職員として、宮城県の復興支援業務に携わらせていただきました。

私が従事した業務は、中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業（一般的に「グループ補助金」と呼ばれています）にかかる業務になります。当該補助事業は、グループを組んで復興事業計画を策定した東日本大震災において被災した県内中小企業等に対する補助制度になります。補助率が高い（国が2分の1、県が4分の1の補助）こともあり、特に東日本大震災による被害の大きかった宮城県では、応募の度に事業者から補助事業額を上回る申請が殺到し、23年度から何度も追加募集を行いつつ、現在に至っております。

とにかく対象となる宮城県内の事業者数が膨大な件数となり、応募毎の受付、審査、認定といった作業は勿論のこと、認定後も、事業者に対する補助金支出に至るまでの県内事業者との事業進捗状況の管理から、書類調査や現地調査などで日々業務に追われておりました。

このように派遣期間中は業務に追われておりましたが、その一方で、宮城県内の事業者の方々から直接、被災直後の大変な状況から再建に向けて動き出すまでの苦労話などを聞くことができたことで、いろいろと自分の認識不足に気づかされました。被災地域の中でも、特に県内の沿岸部に足を運びますと、震災の爪痕が今も大きく残っております。被害の大きさを感ずることができそうですが、その地域の住民は、そこで今後も暮らしていかなければなりません。資金調達の点で苦労している多くの中小企業にとって、グループ補助金を利用することができたことで事業を再開することができて救われたといった声を聞くことも多く、補助事業の重要性も実感できました。

さて、これまで私が携わってきた業務について触れてまいりましたが、たまの休日には、冬季だったこともあり、主に温泉巡りを楽しみました。近場には秋保、作並、松島などの温泉地があり、少し足を伸ばせば、北に鳴子、南に遠刈田や小原などの温泉地もあります。寒い冬季でも温泉に入って息抜きすることができました。牛タンや海の幸など、宮城県は食べ物も美味しかったです。

最後に、私が配属されていた職場は、急増する業務に対応するため、県庁内でも様々な部署から職員が応援に来ているほか、北海道や沖縄県、富山県といった自治体からも職員が応援に来ており、皆が同じ業務を行っているので、常に情報交換しながら一丸となって業務を進めることができました。いろいろと助けられたことも多く、この場を借りて御礼申し上げます。



女川町にて。マンホール部分がむき出しになっている。津波により、もともと陸地であった部分まで海水が浸水している。



白石城 とにかく城内は寒かった。